２０１１／１１／２７　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：感謝の人生・実践編：すべての人に対して１
聖書箇所：ローマ人への手紙　１２章１４－１６節

神のあわれみによって救われた私たち一人ひとりは、この神を感謝しながら生きて行く者です。どのように私たちの感謝を現わしてゆくのか？パウロは私たちに具体的に、その生き方を教え続けてくれています。教会の中で私たちはどのように生きるべきか、また、教会の外でどのように生きるのか？今日、私たちはローマ１２：１４－１６から、クリスチャンだけでなく、すべての人々に対して私たちはどのように生きて行くのか？私たちの感謝をどのように現わしてゆくのか？どのように私たちの愛を実践して行くのか？そのことをごいっしょに見て行きたいと思います。１４－１６節に４種類の人たちに対してどのように対処するのかが教えられています。

Ｃ．愛の実践
◎すべての人との関係において　　１４－１６節
１．迫害をする人に　　１４節

まず１４節を見ると、パウロはこのように私たちに勧めます。**「あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。」**、**「迫害する者」**ということばは、継続してあなたを悩ませる、困らせる人という意味をもったことばです。マレーという神学者は「このことばには、不正な悪意のある虐待の意味が含まれている」と言います。悪意をもって私たちを苦しめる、悪意をもってあなたを虐待すると言うのです。確かに、ここにおられる皆さんも、信仰をもった後、主に忠実に歩んで来られたことでしょう。しかし、主に忠実に歩み続けるほどにいろいろな摩擦を経験して来られたことでしょう。親族の間で、友人の間で、ご近所の間でかもしれません。私たちはいろいろな面で人間関係の難しさを経験します。正しく生きているのに人々に誤解されてしまう、真面目に生きているのに理解されなかったり…と。

パウロはここで「迫害」という厳しいことばを使っています。しかし、実際に、それによって私たちのいのちが奪われるような迫害だけでなく、いろいろな困難を私たちは経験しています。信仰者として正しく歩み続けてゆくとき、様々な問題、様々な困難が私たちの生活に振りかかってきます。ペテロも**「もし、神のみこころなら、善を行なって苦しみを受けるのが、…」**（Ｉペテロ３：１７）と言っています。彼も分かっていたのです。正しいことを行なったなら、すべての問題がフリーの生活を楽しめるのか？そうではなく、正しく歩むほどに問題が生じて来る、それが現実のような気がします。パウロはそのような現実を踏まえた上で、信仰者であるあなたがしなければならないこと、また、してはならないことをここに上げています。

１）しなければならないこと

まず、何をしなければならないのか？パウロが勧めることは**「あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。」**です。確かに、**「あなたがた」**と複数で語られていますが、どちらかというと、これはあなた個人への命令です。なぜなら、人によってその経験が違うからです。あなたを困らせる人、継続して悩ませる人、もしかすると、あなたの悪口を言う人、非難する人がいるかもしれません。それが何であれ、あなたが主の前に正しく歩んでいて、その信仰の歩みに対して非難される場合、どうすればいいのか？パウロは言います。非難するその人を祝福しなさいと。しかも、**「祝福しなさい」**という動詞は現在形です。祝福したいと思うときだけでなく、どんなときも、苦しみがそうであるように、祝福も同じように継続して為してゆきなさいと言うのです。

ここで私たちが立ち止まって考えたいことは、私たちを苦しめる人を祝福することは大変難しい命令のように思えます。なぜでしょう？それは皆さんが受けている迫害が不合理だと知っているからです。「私は何も悪いことをしていないのに、なぜ、こんな目に会うのでしょう？」と。私は神の前に正しく歩もうとしていた。もちろん、失敗があったとしてもそうしていた。私は悪くないのに…と、そのように考えているとき、私たちは大なり小なりその人に対してある種の怒りを覚えます。同時に、その人に対する何かの制裁を期待します。私たちがして来たこと、また、していることは、私を苦しめる人のために祝福を祈るのではなく、「神さま、何とかこんな苦しみを私にもたらすことをこの人が止めるように働いてください。ときには、何か制裁を加えて、この人に間違っていることを悟らせてください。」というように祈ることだったと思います。だから、私たちはパウロのこのメッセージを聞くと、なかなか「分かりました」とは言い難いのです。でも、実は、これはパウロが教えたものではなかったのです。

主イエス・キリストがこのことを教えておられます。マタイ５：４４**「しかし、わたしはあなたがたに言**

います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」と。ルカ６：２８にも「**あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい。**」とあります。ですから、パウロの教えではなく、主イエス･キリストご自身がそのことを命じておられるのです。それを聞いても私たちは「でも、私にはそれは難しすぎます。不可能に思えます。」と言います。

もう一つ見ていただきたいことは、迫害する者のためにその人の最善を祈ること、最善を為そうとすること、これは実は、主なる神の私たちへの愛です。ローマ５：８には「**しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。**」、１０節では「**もし敵であった私たちが、…**」とあります。神に対して罪を犯し続けていたとき、神の敵として生きていたときに、神は私たちに対して何をしてくださっていたのでしょう？私たちを愛して、私たちに祝福を備えてくれたのです。もし、神が私たちの罪にふさわしいものを備えられるなら、それは「さばき」でしかなかったのです。しかし、神に逆らっている私たちに神が備えてくださったものは、私たちに最もふさわしくない罪の赦しであり永遠の救いでした。神の敵のために神が備えられたものはこんなにすばらしい祝福だったのです。

ですから、私たちがパウロのこのメッセージを聞いて、パウロが私たちに言わんとしていることは、あなたが愛されたその愛をもって人々に接しなさいということだと分かります。たとえ、それがあなたを苦しめるものであったとしても、あなたの悪口をいう者、あなたを非難する人であっても、あなたはそのように為しなさい。なぜなら、主イエス･キリストがそのように為してくださったし、主イエス・キリストがあなたにそのことを命じておられるからです。マタイ５：４６－４８を見てください。「**自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。:47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょう。異邦人でも同じことをするではありませんか。:48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。**」

皆さん、これが世の中のカウンセリングと違うところです。世の中のカウンセリングでは、このような難しい人間関係の問題に対していろいろな方法を提示しますが、ある人は「そのようなことに拘らないで、もっと楽しいことをして忘れましょう。」と、また、その人赦してあげなさいと言うかもしれません。どんなカウンセリングを受けたとしても神ご自身が言われることは、あなたが人から責められて苦しい思いを抱いているとき、辛い思いを抱いているとき、そこからの本当の勝利は、ここで教えられていることを実践するまであなたのところには来ないということです。私たちが最もやりたくないことは、迫害する人のために祝福を祈ることです。頭で分かっていてもなかなか実践できません。必ず、どこかに例外があります。「どうもこの人は…」「この人だったら…」と。主なる神は私たちに、苦しいことを忘れなさい、楽しいことをもって気晴らしをしなさい、旅行に出かけたら気が晴れるからとは言われません。「敵のために祝福を祈りなさい」と言われるのです。

Ｉコリント４：１２－１３でパウロはこのようなことを教えています。「**また、私たちは苦労して自分の手で働いています。はずかしめられるときにも祝福し、迫害されるときにも耐え忍び、:13 ののしられるときには、慰めのことばをかけます。今でも、私たちはこの世のちり、あらゆるもののかすです。**」と。どうですか？この世が教えることと全く逆のことが教えられています。様々な困難に出会うときに、不合理だと思うような出来事に出会うことときに、それらに対する完全な解決、また、勝利は、その人の上に神の祝福を祈ることです。「主よ、どうぞ、この人の上にあなたの豊かな祝福を与えてください。」と、そして、彼らの益になることを探り求めて行くのです。これは私たちの罪が「させまい！」とすることです。私たちの罪がさせることは、その人に怒りをもつこと、憎しみをもつこと、いつか仕返しをしようということです。主が教えることは全く逆です。だから、私たちは人間関係の問題の中で、いつまで経っても本当の意味での勝利を得ないのです。みことばが明確に教えることは、どんなにあなたを苦しめる人であっても、あなたが為すべきことは、その人の上に神の豊かな祝福があるように祈り、彼らの益のために為すべきことを追求して行くことです。悪に対して悪で応えるのではないのです。善でもって応えなさいと、このことはまた１２章の終わりで見て行きます。

ですから、まず、パウロが私たちに言うことは「迫害する者のために祝福を祈りなさい」です。

２）してはならないこと　　１４節

１４節に続いて「**…祝福すべきであって、のろってはいけません。**」とあります。ここでパウロが言わんとしていることは、信仰者であるあなたの口から神を賛美する賛美と人をのろうことばが出て来てはならないということです。実は、そのことはヤコブが教えてくれています。ヤコブ書３：９－１０「**私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。:10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。**」と。また、パウロはエペソ４：２９で「**悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。**」と言っています。あ

なたの口から出て来るものは、父なる神への賛美であるべきだ。そして、兄弟姉妹たちに口を開くのであれば、エペソ４：２９の後半にあるように、**「ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」**と、そのような信仰者になりなさいと言うのです。

周りの人たちが何を言うのか、その責任は彼らにあります。私たちの責任は、私たちが悪いことをこの口から発しないことです。そういう人でなければならないのです。あなたの口から賛美とのろいが出て来てはならないのです。あなたを苦しめる者のためにあなたは祝福を祈り、そして、あなたの口からは決して人々に対する悪口が出て来ない、そのように生きなさい、もちろん、教会の中でも外でもあなたはこのようにして生きて行きなさいと言うのです。

結論：もちろん、このような働きを実践するために、神の助けが必要だということは説明するまでもありません。私たちがどんなに心を入れ替えて頑張ろうとしても、私たちにはこのようなことを実践することは無理です。でも、感謝なことは、神がそれを助けてくださるのです。だから、ここに命令があるのです。神は私たちを助けてくださる、そして、こういう人として生きていくことができるのです。繰り返しますが、皆さん、もし、だれかに対してあなたの心の中に苦みがあるならば、その苦みがあなたから神の祝福を遠ざけています。神の前にそれを告白することです。そして、あなたが「主よ、どうぞこの人を、彼らを祝してください。」と祈り始めるときに、主はあなたのうちに何をしてくださるのか？その状況は変わらないかも知れませんが、あなたの心を喜びに溢れさせてくださるのです。非常にシンプルな話です。なぜなら、みこころに、つまり、みことばに従うときに、神はあなたのうちに働かれ、みわざを成されるからです。どんなに屁理屈をつけようと、みことばに逆らっている人に神の祝福がないのは明らかです。そして、そのことは自分自身も知っています。皆さん！このように実践することです。そのときに、あなたは人間関係の様々な問題に対して、神の知恵によって神の勝利を得ることができるのです。

２．喜んでいる人に　　１５節

３．悲しんでいる人に　　１５節

二つ目と三つ目は関連しています。１５節に**「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」**とあります。詳しい説明は必要ありません。なぜなら、皆さんが読まれた通りよく分かることだからです。同情のことです。悲しんでいる者とともに悲しみ、喜んでいる者とともに喜ぶのです。でも、どちらかと言うと、この二つを並べたときに、悲しんでいる者とともに悲しむことは難しくありません。私たちはそのことを何度も経験しています。例えば、テレビから流れて来る被災地の様子を見たときに、皆さんの心は痛んだはずです。涙を流しました。悲しんでいる人たちとともに悲しむことは難しくない。でも、やっかいなのは、喜ぶ者といっしょに喜ぶことです。４世紀のコンスタンチノープルの大司教であったクリュソストモスはこんなことを言います。「泣く者とともに泣くより喜ぶ者とともに喜ぶことが、高潔なキリスト者の気質をより一層必要としている。災難にあった人のために悲しまないような無情な人はいない。しかし、もう一方は非常に高潔なたましいを必要とする。それは嫉妬から遠ざかるだけでなく、称賛されている人とともに喜びをもともにすることだからである。」と。

彼も分かっています。喜んでいる者たちとともに喜ぶことがいかに難しいか。そして、その問題の一つは私たちのうちにある嫉妬です。嫉妬心です。これがあるゆえに、私たちはなかなか人が喜んでいるときにいっしょになって喜ぶことができないのです。「嫉妬」は面白い漢字です。どちらも「女扁」です。女性の皆さんに何か意味があって言っているのではありません。漢字の話をしているだけです。

◎「嫉妬」＝

「嫉」は「ねたむ、憎む、他人の良いことを憎らしく思う」という意味をもっている。

「疾」は「やまいだれ＋矢」から成り、矢のようにきつく早い病を意味する。

「女＋疾」で、ある辞書によれば、女性にありがちなかっと頭に来る疳の虫、つまり、ヒステリーのことであると定義しています。また、「女扁に憎む」という説明もあります。

「妬」という漢字も「ねたみ、他人の幸せをうらやみ憎む」とあります。

「女＋石」です。女性が競争者に負けまいと真っ赤になって興奮することであると。

また、この「石」は「硬い、冷たい、非情なもの」の例えとしても使われます。

つまり皆さん、心が病んでいたらそこには喜びはありません。そこにあるのは妬みです。心が非常に頑なだったらそこには喜びなどないです。そこにあるのは妬みです。

◎「嬉しい」＝漢字を思い出してください。これも女扁です。その横に喜びが付いています。女性たちがにぎやかに笑う意味を表わしています。〔「喜」はご馳走を供え、音楽を奏でて喜ぶこと、口の上の部分は、台の付いた器にうず高く食物を盛って飾り付けた様、にぎやかに笑って食事をする。〕

つまり、問題は私たちの心です。私たちの心が喜んでいるなら、私たちは嬉しいし主の前に感謝を為す者として成長して行きます。心が問題だということです。

では、私たちがこの心に潜んでいる「嫉妬心」を捨てて、喜びで心を満たすためにはどうすれば良いのでしょう？それは、主なる神の助けとともに、自分を捨てる決心をしなければいけないということです。主イエス・キリストは「自分の十字架を日々負ってわたしについて来なさい」と言われました。私たちを悩ませるのは「自分」です。利己的な物の考え方です。常に、自分が中心でなければならないのです。自分が満足しなければいけない、自分の思い通りでないといけない、ここに問題があるのです。バークレーはこのように言います。「我々が他人の成功を自分のことのように喜ぶことができるのは、ただ、利己心が死んだときだけである。」と。「自分」というものを捨てたときに、我々は人々の喜びを自分のこととして喜ぶのです。利己心が残っているときに我々は自分と比較します。「何でこの人ばかり祝福を受けるのか？何でこの人ばかりこんなに楽しんでいるのか？何でこの人ばかり…」と、そうすると私たちはそのことを喜べないのです。

もう皆さんもよくご存じです。神がどのようなお方であるかということを。私たちはこの次に見ますが、人と比較することを止めないといけません。神が言われたことに立たないと、私たちはいつまで経っても、主の祝福をいただきながら「生きていることはすばらしい！神とともに生きることはすばらしい」とそのような祝福を経験しながら、祝福を味わい喜びながら生きることなど不可能です。問題はあなたの心です。どうぞ、あなたの心から利己的な自分中心の考え方、自分を捨ててください。「主よ、どうぞこれを取り去ってください。私ではなくてあなたが喜ばれることを考えることができるように、それを選択できるように。そして、あなたが教えてくださったように、喜ぶ者とともに喜ぶ人に私を変えてください。それをいつも邪魔する私のこの利己的な思いを取り去ってください。この嫉妬心を私から除いてください。」と。

結論：「祈りの人になりなさい」とパウロが言いました。私たちはそのような人になりたいものです。今、私たちは三つのことを見て来ました。私たちが教会であろうと社会であろうとどのように生きて行くのかということです。でも、すべてを見ると、このように言えます。私たちは愛を実践していくことと。もし、私たちが今見て来たように、迫害する者を祝福し、そして、泣く者とともに泣き喜ぶ者といっしょに喜ぶことを実践するなら、そのような教会として成長していくならば、確実に、周りの人々は私たちのうちに我々を変えてくださっている主ご自身を見ます。あなたがそのように変えられ、群れがそのように変えられたなら、確実に、周りの人々は私たちのうちに働きを為しておられる主を見ます。皆さんがそのような愛をもって、まだイエス・キリストを信じていない方と交わるなら、彼らはあなたを変えてくださっているキリストを見、キリストの愛をあなたのうちに見ることは確実です。だから、私たちはそのように生きていこうとするのです。「そのように生きて行きなさい！」とパウロは私たちに命じるのです。たとえ、それが迫害する人であったとしても。

４．自分と異なる人　　１６節

１６節**「互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思ってはいけません。」**、自分と異なる人との付き合いです。ひょっとすると、パウロはこの手紙を書いているときに、ローマにおいてユダヤ人と異邦人との間に存在した緊張関係、それを覚えたかもしれません。いずれにしろ、パウロはここで、すべての人が差別や分け隔てを設けることなく一つになることの大切さを教えています。この１６節で「心」とか「思い」と訳されていることばがあります。これは他の箇所を見ると、信者の一致を駆り立てるために使われたり、また、他の箇所ではプライドに対する警告に用いられています。

ローマ１５：５**「どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいますように。」**

Ⅱコリント１３：１１**「終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。」**

ピリピ２：２**「私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。」**

ピリピ４：２**「ユウオデヤに勧め、スントケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。」**

ローマ１１：２０**「そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。」**

ローマ１２：３**「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。」**

◎一致を保ちなさい　：　互いに一つ心になりなさい

私たちは信者の間において人間的な差別などを設けてはならない、人種が違っても、国籍が違っても、家庭環境が違っても、教育が違っても、何が違っても我々は主イエス・キリストにあって一つにされた者たちです。私たちの間に決して設けてはならないもの、それはそのような人間的な差別です。**「互いに一つ心になり」**とは「同じことを考えなさい」という意味をもっています。すなわち、お互いに対して同じ思いをもちなさい、優越感も劣等感も、特に、信者の間にあってはならないということを言っているのです。私たちはみな、主にあって平等なのです。主の前に罪人であり、主の恵みによって救われた者にすぎないのです。ですから、私たちがともに集まるときに、決して、私たちの集まりの中にあってそのような差別をしてはならないということです。そのことはヤコブの手紙の中で、２章１節のところからヤコブが詳しく教えてくれています。２：１－９**「私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。:2 あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、立派な服装をした人がはいって来、またみすぼらしい服装をした貧しい人もはいって来たとします。:3 あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい。」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい。」と言うとすれば、:4 あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。:5 よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。:6 それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。:7 あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。:8 もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という最高の律法を守るなら、あなたがたの行ないはりっぱです。:9 しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。」**

ですから、パウロはこのローマ１２：１６で、あなたたちはお互いの間にあってそのような人間的な差別を設けてはならないと言います。みな違うのです。感謝なことに、私たちの礼拝にはろうの方々、外国の方々も出席しています。でも、私たちは主イエス･キリストにあってみな一つです。私たちはそこに何らの差別も設けてはならないのです。そのことに関して、パウロは二つのことを命じています。

◎一致を保つために

１６節に、二つのことを捨てなさいと記されています。

（１）高慢さを捨てる　：　「高ぶった思いを持たず、」

この「高ぶった」ということばは「高慢、横柄、不遜な」という意味です。そのような考えを捨てなさいと言うのです。パウロがＩテモテ６：１７で**「この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。」**と言ったこととよく似ています。だから、まず、教会の中にあって、裕福であろうとなかろうと、裕福だからといってそれを自慢して人々を見下すようなことがあってはならないと言うのです。その続きに**「かえって身分の低い者に順応しなさい。」**とあります。この**「身分の低い者」**ということばも、ヤコブ１：９を見ると**「貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。」**、**「貧しい境遇」**と訳されています。だから、こんなに持っているからといって、持っていない人を見下してしまってはいけない、そのような虚しいプライドを捨てなさいと言うのです。

（２）自分こそ知者だと思わない　：　「自分こそ知者だなどと思ってはいけません。」

この「思ってはいけない」ということばも非常に面白いのですが、自分でそのように思い、自分でそのように考えるという意味です。つまり、私は賢いと自分でそのように思うことは止めなさいということです。神の前に知恵のある賢い人とはどのような人か、皆さん覚えていらっしゃるでしょう。それは学んだ主の教え、主のみこころを実生活に適応できる人、みことばの教えに沿って生きる人、それが知恵のある人です。ＩＱがどれ位だとか、どんな学歴があるか、どんな学位を持っているかなどは神の前ではすべて虚しいというのです。「この世の知恵をもって神を知ることはない」と言っています。我々が求めなければいけない知恵とは、学んだみことばを実践する、その知恵です。

パウロは、主なる神のおことばに対して心を開こうとしていない人々を責めます。主の前に知恵のある人は、主のみこころを歓迎し、それが自分の思い、考えと違っても喜んで心からそれを受け入れる人です。マタイの福音書７：２４に**「だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。」**と記されています。イエスは賢い人がどのような人かを教えています。それは、主イエスのことばを聞いてそれを行なう人だと言うのです。ヤコブ３：１３では**「あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行ないを、良い生き方によって示しなさい。」**と書かれています。つまり、知恵のある人、賢い人とは、みことばを日々の生活に実践している人です。今、見て来た通りです。ですから、パウロはこの１６節で「一

つになりなさい。一致しなさい。」と言うのです。そのために互いにそのようなプライドを捨てることです。物質においても知識においても、そのようなものを誇る必要はない、誇るべきでないと言うのです。そして、一つとなって歩んで行きなさいと言います。

結論：私たちはこのように１４節から、どのように自分たちの感謝を現わしていくのか、どのように愛を実践していくのかを見て来ました。迫害する者に対して、また、泣く者、喜ぶ者に対しても、そして、私たちがこのように集まったときにその中に人間的な差別が決してあってはならないと。今、それが「愛の実践」と言ったのは、今からみことばを読みますからよく聞いてください。Ｉコリント１３：４－７**「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。:5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、:6 不正を喜ばずに真理を喜びます。:7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」**、今私たちが見たのは「愛の定義」と言われているところです。今、私たちが学んで来たことと関連していませんか？人を妬まない、自慢しない、高慢にならない、自分の利益を求めないと言うのです。まさに、このみことばが教えている「愛の実践」を、私たちは今、パウロのみことばの中に見て来たのです。

　信仰者の皆さん、大切なことは、私たちの主が教えてくださった真理を私たちが日々の生活に生かしていくことです。どうぞ、愛を実践する者に、神の恵みによって益々変えられてください。教会の中でもそうだし、また、教会の外でもそうです。私たちがこうしてみことばを実践していくときに、確実に私たちの神のすばらしさが周りに明らかにされていきます。そして、何よりも、それがあなたの神に対する感謝の証だと言うのです。神に対する感謝をしたいと願っている人たちは、こうして主のみこころに沿って生きていこうとする人だと教えられました。ぜひ、そのように歩みながら、この新しい一週間も神のすばらしさを証する人として主によって用いられてください。心からそのことを願います。

《考えましょう》

１．迫害などによる心の重荷や苦しみに勝利するために、主が命じられたことは何でしたか？

２．なぜ、喜ぶ者といっしょに喜ぶことが難しいのでしょう？　その理由を挙げてください。

３．すべての人を主が愛されたように、分け隔てなく愛するためにはどうすればよいのでしょうか？